
2. 萩ノ島茅葺環状集落の紹介・保全、茅葺ネットづくり（継続2年目）

萩ノ島わらじ会
（新潟県刈羽郡高柳町）

I. 活動の背景及び目的

平成6年度に助成事業として、萩ノ島集落の紹介と老朽化の著しい茅葺民家の屋根の補修を実施できたことにより、集落の雰囲気も前向きな姿勢が大いに感じられるようになってきた。

また、町外からの見学者も概ね5000人に急増し、貴重な茅葺文化資源という観点を超えて、その「心地よさ」が共感を得るなど五感に基づく時代感覚で茅葺き集落を多面的に理解されることが分かった。



茅葺民家の環状集落

これらの経緯を踏まえて、萩ノ島茅葺き集落を新しい手法で紹介し、幅広い理解をベースにした「継続的な保全のしくみづくり」と「全国の茅葺集落や茅葺民家とのネットワークづくり」を推進して今後の活動の基礎を作ることを目的とする。

II. 活動の内容

1. 茅葺環状集落の紹介・保全、茅葺ネットづくりのキーワードとして

- ・豊かさ……いかにエコロジカルで生活文化度に満ちているかをアピールする。
- ・村びと……より人間味ある「村びと」のすばらしさをアピールする。
- ・自助自立……保全について、地元が一生懸命に頑張ると共に地域外の共感者と協働して保全のシステムづくりをめざす。
- ・共感……生きた「かやぶき集落」を今の感覚で翻訳して「心地よさ」を体感してもらうことにより理解を広める。
- ・ネットワーク…国内の茅葺集落や茅葺民家の人々と交流することにより、情報交換や茅葺のすばらしさのアピールをする。

の5項目を大切に活動することとした。

2. 活動の概要

○荻ノ島茅葺家環状集落の紹介

荻ノ島集落の心地よさ翻訳者として、今回は画家の吉田直治氏にお願いし、「第1回かやぶき心地よさフェスティバル(吉田直治画伯のかやぶき展)」を平成7年5月3日～5日の3日間、集落内の茅葺の宿及び久三郎の3棟で開催した。

延入場者は、2204名に達し、予想を遥かに超える好評をいただいた。

期間中に平山新潟県知事も来場され、行政的にも茅葺が認知されるに至った。

<※平成8年度は全国に呼びかけ写真展を計画している。>

○茅葺ネットワーク及び補修・保全基金システムづくり

第1回全国茅葺ネットワーク・フォーラムを平成8年3月23日～24日の2日間にわたり、開催。21世紀の茅葺のくらしづくりと生活空間の創造をテーマに、地元をはじめ、全国から茅葺に関心のある人、住んでいる人、造っている人、行政でかかわっている人など約100名の方々が参加された。

(フォーラム内容)

○「荻ノ島環状かやぶき集落協働支援基金」を荻ノ島ファンを代表して安達生恒氏が提案、今後、茅葺に共感する地域内外の人々に呼びかけていくこととなった。

○基調講演では、安藤邦廣筑波大学助教授が「茅葺民家は、日本の住宅史そのもの。土間、広間、座敷の三つの機能があり、仕事、生活、接客とそれぞれが違った意味を持ちます。土間は縄文の竪穴式住居を受け継ぎ、広間は、大陸からの渡来住宅、座敷は、武家社会でアレンジされました。これから先の茅葺民家をどうすべきか考えると、縄文人、渡来人、武家社会と三つの空間に続く第四の文化空間か、三つを再編した新たな空間をつくらなければなりません。」

と基本的理念を語ってくれた。

○分科会は、荻ノ島、門出のかやぶきの宿に分かれ、いろりを中心に車座形式で、3時間にもわたり、熱のこもった話し合いのうえ「茅葺フォーラムアピール」を採択した。

・分科会の討議内容

第1分科会

「暮らしづくりを考える」

- ・民家と文化財
- ・共同体のしくみ
- ・行政や民間の支援
- ・茅葺住人の意識
- ・観光と生活

第2分科会

「ネットワークを考える」

- ・職人の後継者
- ・職人・住み手を結ぶ情報
- ・茅など資材の確保
- ・共感者



フォーラム会場の「おやけ」

☆茅葺フォーラムアピール

- ・かやぶきを、住む人の思いと歩幅の中で考えよう
- ・かやぶきを通して、自分にやさしい暮らしを考えよう
- ・かやぶきに、住む人・つくる人・共感する人をつなぐネットワークを作ろう

翌日の現地研修会も含めて、フォーラムは、大いに盛り上がり、来年以降も継続していくことを申し合わせた。

今回の助成事業により、茅葺の素晴らしさが、言葉ではなく、第三者の共感の姿をまのあたりにすることで実感として定着してきており、住んでいる人の認識が明らかに変わってきた事は、大きな成果である。

また、茅葺ネットワーク・フォーラムや協働基金の創設などを実施できた事で、活動に対する地域の信頼感も高まり、行政からも注目されるようになった。

これらの活動が認められ、平成8年度から茅葺の補修・保全に、県、町より財政支援をいただくこととなった。

また、新たに「荻ノ島心地よい環境づくり協議会」ができ、茅葺集落としての自覚に立って、将来を見据えた村づくりを考えていくことになった。

グループ活動から集落づくりへと展開できた事は、非常に意義深い。

今後もネットワークで情報交換しながら、生き生きとした活動を重ねて行きたい。

茅葺(かやぶ)きの今後を元氣と知恵を出し合って考えようという「第一回全国茅葺きネットワーク・フォーラム(イン・高柳) (同フォーラム実行委主催)が二十三日、刈羽高柳町門出と荻ノ島の「かやぶきの里」で開かれた。

フォーラムには全国から茅葺きに関心のある人や実際に住んでいる人、住みたい人、行政でかわっている人たちが六十六人が参加した。

門出かやぶきの里で開か

高柳で全国フォーラム

ネットづくり論議



全国から多数が集まった茅葺きフォーラムの全体会—23日、刈羽高柳町門出かやぶきの里

この後参加者たちは二つの分科会に分かれ、茅葺きのくらしやネットワークづくりなどについて熱心な意見交換を行った。フォーラムは二十四日の現地視察で二日間の日程を終える。

茅葺き守り明日へバトン

茅葺(かやぶ)きの今後を元氣と知恵を出し合って考えようという「第一回全国茅葺きネットワーク・フォーラム(イン・高柳) (同フォーラム実行委主催)が二十三日、刈羽高柳町門出と荻ノ島の「かやぶきの里」で開かれた。

フォーラムには全国から茅葺きに関心のある人や実際に住んでいる人、住みたい人、行政でかわっている人たちが六十六人が参加した。

茅葺(かやぶ)きの今後を元氣と知恵を出し合って考えようという「第一回全国茅葺きネットワーク・フォーラム(イン・高柳) (同フォーラム実行委主催)が二十三日、刈羽高柳町門出と荻ノ島の「かやぶきの里」で開かれた。

フォーラムの様態を伝える地元紙